**第6章　林業**

**概況**

　府下の森林の大部分は隣接府県境沿いに連なる北摂山系、生駒金剛山系、和泉葛城山系に分布しており、かつ都市近郊に位置しているため、林業の基盤としてだけでなく、貴重な緑資源として「府民の森」など公益的機能を果たしている。
　これを森林植物帯からみると、大部分は暖帯林で、一部には温帯林も見られる。しかし、現在の森林は大部分が「あかまつ」、「くぬぎ」、「こなら」等の二次林、あるいは「すぎ」、「ひのき」等の人工林である。なかでも、金剛、葛城山系では「すぎ」、「ひのき」が集中し、府下で最も集約的な林業が営まれている。
　府下の林家数は、1980年農林業センサス（昭和55年２月１日現在）の結果によると、３万4256戸である。その内訳は農家林家数が7400戸（構成比21.6％）、非農家林家数が２万6856戸（同78.4％）で、非農家林家が圧倒的に多い。

**林野面積**

　府下の林野面積は５万7943 h a で、前年より82ha （0.1％）減少した。
　その内訳をみると、国有林野面積は1042haで前年と変らず、民有林野面積は５万6678haで、前年より82ha （0.1％）減少した。官行造林面積は前年と変らず223haである。大阪府総面積18万6940ha  （昭和62年10月１日現在）に占めるそれぞれの割合は、国有林野面積が0.6％、民有林野面積が30.3％、官行造林面積が0.1％である。
　府下の林野面積の97.8％を占める民有林野のうち、立木地は５万3884haで、前年より48ha  （0.1％）減少し、民有林野面積の95.1％を占めている。その内訳は、人工林が２万6271ha  （構成比48.8％）、天然林が２万7613ha  （同51.2％）となっている。また、樹種別内訳は針葉樹が３万8884ha  （構成比72.2％）、広葉樹が１万5000ha（同27.8％）となっている。
　民有林野面積を市町村別にみると、能勢町が7789ha（構成比13.7％）で最も多く、以下河内長野市7388ha（同13.0％）、高槻市4542ha  （同8.0％）の順となり、この３市町で全体の３分の１強（34.8％）を占めている。

**林野蓄積量**

　府下の林野蓄積量は504万4400m3で、前年より８万4900m3（1.7％）増加した。
　その内訳をみると、国有林野蓄積量12万8000m3で前年より4000m3（3.2％）増加し、民有林野蓄積量は490万8000m3で前年より７万9000m3（1.6％）増加した。官行造林蓄積量は8400m3で、前年より1900m3（29.2％）増加した。
　民有林野蓄積量のうち、人工林は311万9000m3（構成比63. 5％）、天然林は178万9000m3（同36.5％）である。また、樹種別内訳は針葉樹が435万5000m3（構成比88.7％）、広葉樹が55万3000m3（同11.3％）となっている。
　民有林野蓄積量を市町村別にみると、河内長野市が100万1000m3（構成比20. 4％）で最も多く、以下、能勢町43万4000m3（同8.8％）、高槻市41万4000m3(同8.4％）の順となり、この３市町で全体の37.7％を占めている。

**苗木生産量等**

　山行造林用苗木の生産量は82万2000本で、前年より13万6000本（14.5％）減少した。樹木別にみると、「ひのき」が71万7000本（構成比89.4％）で最も多く、以下、「すぎ」が４万7000本（同5.9％）、「くろまつ」が２万5000本（同3.1％）、「あかまつ」が１万3000本（同1.6 ％）となっている。
　林産物素材の生産量は２万m3で、前年より3000m3（13.0%）減少した。林産物素材の他府県への移出量は２万2000m3、移入量（外材を含む）は104万3000m3であり、移出量は移入量に比べ微々たるものである。